

第2回 市町村・公民館等職員専門研修 実施レポート

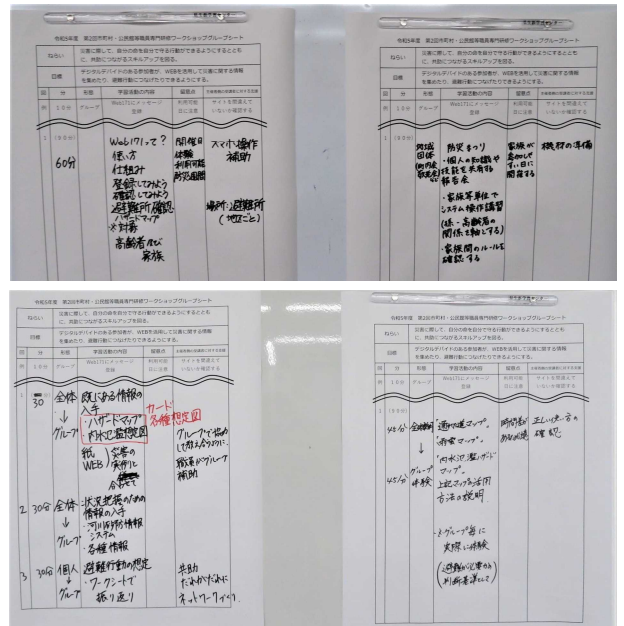
期日：令和5年8月30日（水） 参加者：30名（うち市町村から12名）

県や市町村の生涯学習・社会教育主管課職員や、公民館等社会教育施設に勤務する職員を対象に、「公民館が地域のためにできること」をテーマに研修を行いました。参加者はWebサイトを利用した防災講座の企画や障害者スポーツの波及効果について学びました。

【午前中 講義・演習】

当センター社会教育主事 **進藤 尊信** が「自分たちで防災講座を作るために～Webを活用して～」と題し、前半で防災講座の企画に役立つWeb上のソースの例として、『ハザードマップ等各種想定図』『自然災害伝承碑』『災害用伝言板』『秋田県河川砂防情報システム』『通れた道マップ』『キキクル』を紹介しました。また、7月の大雨に伴う冠水の際、これらWebサイトがどのように情報を伝えたのかを、講師が保存していた当時の各Webサイトの表示を見ながら確認しました。

後半では、「Webを利用した防災関係の講座を企画する」としたら、「どんな講座を作るか」と題して、グループ別に防災講座企画のワークショップを行いました。各グループでは例示した6つのWebソースのうち1つ以上を含めた講座の企画・発表（右上写真参照）を行い、企画の共有を図りました。



【午後 講義・演習】

当センター副主幹（兼）学習事業班長 **柏木 睦** を講師とし、「障害者スポーツの波及効果」と題して講義・演習を行いました。前半では、令和元年度のあきたスマートカレッジ『「障害者スポーツ」を通じて障害者の生涯学習を考えよう』がセンター中2階に開設された「障害者スポーツコーナー」設置のきっかけになったことや、障害者の生涯学習の必要性について共有できた企業との協働により令和3年度に「ポッチャ交流大会」が始まったことなどに触れ、取組が波及していく様子を紹介しました。

後半、参加者は、実際に卓球バレーとポッチャを体験しました。ポッチャは、研修会場の講堂内にコートを設置して実施しました。コートの奥行きがルールの規定を満たしていなかったのですが、当センターが大切にしてきた「まずは体験してみることが大事」「状況に応じて柔軟に対応する」の方針の下、研修を進めました。体験後は、小グループに分かれて、障害者スポーツ体験を通じて感じたこと・考えたことについて意見交換を行いました。



【参加者アンケートより】（抜粋）

- ・ Webを活用した防災講座の企画は、普段、自分では思いつかない内容を聞けたり、他の班の考えを学ぶことができたりしてよかったです。
- ・ 障害者スポーツでポッチャと卓球バレーは実際に初めて行って、高齢者大学でも楽しんで行えるなど参考になりました。